

“はたらく”を助ける
デジタルグッズ
はたらき方改革の基本、
最適なモバイルノートの選び方



12～13型のモバイルノートパソコンを持ち歩き、社内のネットワークと連携して場所を選ばず仕事ができるというのは、はたらき方改革の基本スタイルだ。モバイルノートは多種多様だが、選ぶポイントは「重さ」「バッテリー駆動時間」「セキュリティ」「拡張性」だ。

「重さ」は電車やバス、徒歩での移動が多い場合に重視したい。最近増えてきた 1 kg を切るような軽い製品が持ち歩きやすい。「バッテリー駆動時間」の長さは、電源のない場所で使うことが多い場合に特に考慮したいポイント。バッテリーの消費はパソコンの使い方によって大きく変わるので、カタログスペックの 5～6 割を実際に使える駆動時間の目安にしておくとうい。たとえば半日(4～5時間)使うならカタログに記載されている値で 10 時間以上のものが望ましい。

持ち歩いて外で使うことがあるので「セキュリティ」は特に重要だ。最近是指紋認証や顔認証でサインインできる製品が増えていて、これならパスワード入力を盗み見される心配がない。また、モバイルノートに保存されているデータを暗号化して守るための TPM セキュリティチップも備えていて欲しい。

次にどんな拡張端子を備えているかという「拡張性」も忘れてはならない。たとえばプロジェクターに接続することが多いのなら外部ディスプレイ接続端子が必要だし、有線で LAN に接続することが多いのなら、LAN ポートが必要になる。USB 接続の変換アダプターを使う方法もあるが、その変換アダプターをオフィスや自宅に忘れてしまうと取り返しがつかない。こうした端子が本体についていると安心だ。マウスやイヤホンといった Bluetooth 接続のものがある周辺機器は、それを使ってもいいだろう。

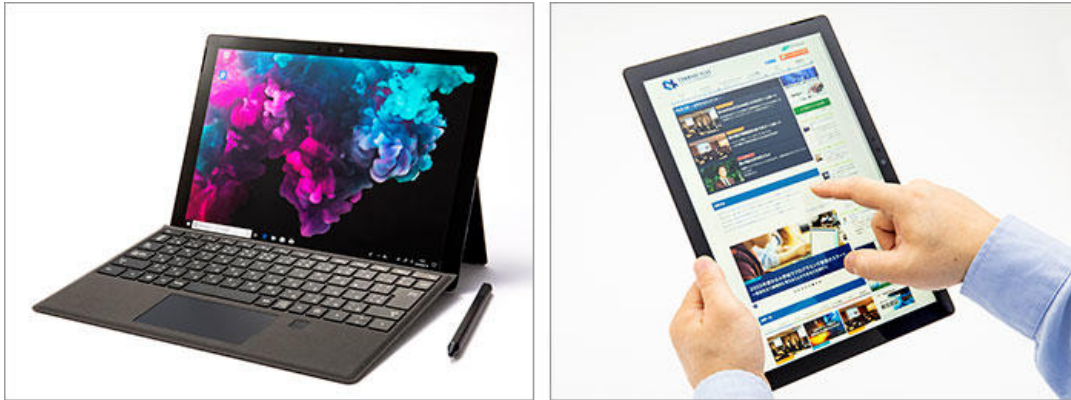
こうした要素を満たす製品を見てみよう。たとえば富士通クライアントコンピューティングの「FMV LIFEBOOK UH-X/C3」は重さ約 698g で、13.3 型モバイルノートとしては最軽量クラスだ。バッテリー駆動時間はカタログ値で約 11.5 時間と必要十分。顔認証機能も備える。拡張端子も多く、HDMI 出力や有線 LAN ポートなどを備えるほか、今後使うことが増えそうな USB Type-C ポートを 2 つ備えている。



富士通クライアントコンピューティングの「FMV LIFEBOOK UH-X/C3」。700g を切る軽さと高い拡張性を両立しているのが特徴。

“はたらく”を助ける **デジタルグッズ**

営業などで、少人数で相手側に画面を見せながら説明するような使い方が多いのなら、画面を切り離したり回転させることでタブレットとしてもノートパソコンとしても使える、「2 in 1」と呼ばれるタイプの製品が便利だ。このタイプは、スマートフォンのように画面に触れて操作できるタッチ操作に対応しているので、より直感的な操作や説明ができる。たとえば、日本マイクロソフトの「Surface Pro 6」は 12.3 型の Windows 10 搭載タブレットで、別売のキーボード兼カバーと組み合わせることで、ノートパソコンのように使える。顔認証機能も備えている



日本マイクロソフトの「Surface Pro 6」と、オプションのキーボード兼カバーの「Surface Pro タイプカバー、指紋認証つき」「Surface ペン」。タイプカバーには指紋認証機能なしのものもある。

日本では未発売だが、Google の Chrome OS を搭載するタブレット「Google Pixel Slate」も、別売のキーボードを取り付けられる「2 in 1」製品だ。起動の速さや Android スマホとの互換性、Google アシスタントの活用や 2 つの USB Type-C ポートが特徴で、気軽に入手可能になれば、Google の各種 Web サービスを使うことが多い人にとって魅力ある存在になるだろう。

モバイルノートは 12 ～ 13 型ディスプレイ搭載製品が多いが、画面が小さいためやや見づらい。外出先で使うことも多いが、オフィスで腰を据えて作業する時間も長いのなら、一回り大きい 14 型ディスプレイを搭載した製品が見やすく使いやすい。たとえば VAIO の「VAIO SX14」は、14 型ディスプレイを搭載しつつ、重さは最軽量モデルで約 999g と軽く、持ち運びやすい。拡張性も高く、オフィスや家庭で一般的な 15.6 型ノートパソコンのように使える。



VAIO の「VAIO SX14」。13 型モバイルノート並みのサイズと軽さで、ディスプレイが一回り大きく見やすい。アナログ RGB 出力や有線 LAN ポートなども備える。

企業によってこうしたモバイルデバイスの運用ルールは異なるので、それに合わせる必要があるが、最適な一台を選んでほしい。モバイルノートの導入はきっと社員のはたらき方を進化させるだろう。

